



え・城谷俊也

すなおな心の 陰と陽

倫

理法人会は、倫理経営の土台である純粋倫理の学習と

実践を通じて、経営者の自己革新をはかることを目的としています。自己革新をはかるとは、言い換えれば、「すなおな心を目指す」ことだと言えるでしょう。

その、すなおな心には、陰と陽の二面があります。

陰の面とは「受容」です。すべてをそのまま受け入れる心になることです。例えるなら、水がどのような形の容器でも、そのままに受け入れ、自らの姿を変えるような柔軟な心の様子です。

受ける行為の典型といえるのが「ハイ」という返事です。倫理運動を創始した丸山敏雄は、「ハイ」の返事について、次のように述べました。

この「ハイ」は簡単なようであるが、ただ人の言葉を聞いて、「ハイ」と返事するのではない。すべてを受け容れる絶対境の表現である。寒暑風雨、順逆治乱、そしりも怒りも、その悉(ことごとく)くを受けて排斥(はいせき)せぬ。『純粋倫理原論』

経営者モーニングセミナー(MS)では、基本テキストである『万人幸福の葉』を輪読しています。

輪読とは、数人が一冊の本を順番に読むことであり、MSで輪読する際には、「ハイ」と返事をしてから、該当する箇所を読み進めます。また、リーダーから読み間違えを指摘された場合も、「ハイ」と返事をし、その指摘を受けてから読み直します。双方ともに、受容することを「ハイ」の返事で表現しているのです。

MSに限らず、日常生活で返事をする機会は多くあります。家庭において、家族から名前を呼ばれる。会社において、上司や部下、同僚から名前を呼ばれる。例えば手が誰であつても、すべてを受け入れる、歯切れのよい「ハイ」の返事を目指したいものです。

続いて、すなおの陽の面は、「発動」です。受容を水とするならば、火のように、積極的に働きかけることに例えられます。

一度始めたことは、最後までやり遂げる。グズグズしたり、気を

緩めたりせず、大胆に、一気呵成に行なう。気づいたらすぐする「即行」の実践とは、まさにこの能動的な陽の面を、日常生活の起居動作に及ぼしたものでしょう。

私たちの日常は、様々な気づきで溢れています。その気づきをあやふやにせず、先延ばしにせず、迅速に処理すること。それはまさに、すなおな心境に至るための要諦に他なりません。

また、「即行」の実践により、実行力・判断力・解決力が養われます。この三つの力は、事業商売には欠かせない能力でしょう。

最高のチャンスであるその一瞬を逃さず、的確に捉えて行動に移すことが「即行」の実践であり、すなおな心の陽の面、積極的に働きかける発動となるのです。

丸山敏雄は「すなお」という言葉に「純情」の文字をあてました。純情は、受容と発動、すなわち陰と陽の二面を持ち合わせているのです。純情(すなお)な心境を目指して、日々、自己革新をはかってまいりましょう。